

新潟・馬越遺跡

バイパス建設工事に伴い、二ヵ年度をかけ、調査区を I ~ IV に設定し、約二二〇〇〇m²を対象として実施した。

所在地	新潟県加茂市大字下条
調査期間	一九九八年（平10）七月～一二月、一九九九年八月～一二月

5	4	3
発掘機関	加茂市教育委員会	
調査担当者	伊藤秀和	

7	6	5
遺跡及び木簡出土遺構の概要	遺跡の種類	集落もしくは官衙関連施設跡
遺跡の年代	八世紀～一〇世紀	

馬越遺跡は、加茂市域の北西、下条川左岸の沖積地に位置する。

遺跡の現況は、一面の水田
となり、日々の標高は約

七mを測る。

下条川を挟んだ対岸には

(茂) 出土) や中沢遺跡など、同

(加 茂)

時代の遺跡が多く見られる
調査は、国道四〇三号線

包含層

今回報告する三点の木簡のうち、(1)と(2)はそれぞれ土坑から、(3)は包含層から出土した。(1)と(2)が出土した土坑は、極めて近い位置にあり、木簡以外にも、斎串や用途不明の木製品などが出土している。また、両土坑付近には、石帶・綠釉陶器・灰釉陶器が出土する、し字型に配置された掘立柱建物群や、斎串・舟形木製品が出土した溝などがある。両土坑とも出土土器から九世紀後半～一〇世紀初め頃に位置づけられ、(1)と(2)の木簡も同時期と推測される。

本調査で検出された主な遺構は、多くの掘立柱建物・竪穴小溝・溝・井戸・土坑・河川跡などである。注目すべき遺物としては、銛・帶金具（丸鞘）・石帶（丸鞘）・石製品（分銅？）などがある。墨書き土器も數十点出土しており、「大田」「是人」などが記される。

土坑SK六一（仮称）

* 1

(286) × 21 × 2 019

(163) × 21 × 1 019



(1)



(2)



(3)

(1)は、下端を欠損するが、上端は方頭に仕上げ、幅が中程で細くなる形状で、斎串と考えられる。(2)も下端を欠損するが、(1)と同じ形状のものと推測される。(1)(2)とも氏名である「丈部」が明確である他は、解読できない。(1)の「家カ」の下は「レ」と、波線状の符号を書いているように見える。その形状と出土状況から祭祀に關係したものと思われる。「丈部」は、和島村八幡林遺跡出土の郡符木簡の差出人にも見える(本誌第一三号)。

(3)は、矩形を呈した厚みのある完形の木簡である。中央やや上部に「日」の文字が確認され、その周囲にも様々な墨痕が見られるが、

(3)



55×55×5 011

意味不明である。

なお、木簡の釈文については、新潟大学の小林昌二氏・相沢央氏よりご教示いただいた。

(伊藤秀和)

なお、木簡の釈文については、新潟大学の小林昌二氏・相沢央氏よりご教示いただいた。